

## 美しい炎、楽しい薪ストーブクッキング

日鉄工営株式会社(神奈川県横浜市瀬谷区 ☎045-364-8030 代表取締役社長 原 信吾)\*1 は、ユーザーに薪ストーブライフを一層楽しんでいただくため、この冬からクッキングオープン機能と高気密化住宅対応の新機能を盛り込み、美しい炎が楽しめる2機種の薪ストーブの市場投入を図ることを発表した。

### \*キューブ FLAME TypeD \*



正式名称	キューブ FLAME TypeD
最大出力	14,000Kcal/h
最大暖房面積	132 m <sup>2</sup>
暖房方式	輻射・対流併用可能
燃焼方式	クリーンバーン
材質	SS400(鋼鉄)
寸法(mm)	W600×H1220×L540
重量	約 180kg
機能	二次燃焼・ガラスクリーン機能付き オープン室にて調理可能
価格	620,000 円 (カバー別売)

### \*キューブ FLAME TypeC \*



正式名称	キューブ FLAME TypeC
最大出力	9,100Kcal/h
最大暖房面積	80 m <sup>2</sup>
暖房方式	輻射・対流併用可能
燃焼方式	クリーンバーン
材質	SS400(鋼鉄)
寸法(mm)	W415×H760×L755
重量	約 120kg
機能	二次燃焼・ガラスクリーン機能付き 外気導入対応／空気量ワンタッチ操作
価格	310,000 円(カバー別売)

### ◎キューブ FLAME の特徴

薪ストーブ『キューブ FLAME』\*2 は< 赤・青・緑・黒 他 >の対流カバーをつけることで鉄製品のもつ冷たい印象を払拭し、女性にも好まれる可愛いデザインになっており、“暖房器具”ではなく、部屋のインテリアの 1 つにもなる薪ストーブである。

炉壁は 9mmの厚板鋼板でできているため、耐久性が高く、燃料には広葉樹のみならず針葉樹も遠慮なく使える。日本には多くの針葉樹林が放置され荒廃しており、針葉樹の実需を高めれば森林の荒廃が抑止でき美しい国土の維持に貢献できる。針葉樹は燃焼させると温度が急上昇する。多くの薪ストーブが素材としている鋳物ではこの針葉樹の熱変化に対応することができない。当社薪ストーブはこの熱変化に対応でき、且つ、鋼板のもつ欠点「冷めやすい」という点を 9mm という厚みで補うことで、温まりやすく、蓄熱性能をあげることに成功した。また、気密性の高い構造のため、空気制御が容易で、美しい炎を作り出すことができる。

#### ■TypeD

TypeD は薪ストーブ本体上部にクッキング機能『オーブン』がついたクッキング薪ストーブである。通常の薪ストーブでも本体炉内で調理は可能だが、燃え盛る炉内へ鍋等を入れるため火傷の危険性があり、また、火が当たる箇所と当たらない箇所があるため温度差ができやすく調理に適しているとは言えない部分があった。

本製品は炉内の上にオーブンがあり、そのオーブンも二重構造となっている。内箱と外箱の間を燃焼ガス・煙が左右後方均一に通過する設計のため、オーブン室が遠赤外線均一に温まる。そのため、直火料理では難しいクッキーやケーキ等も調理可能である。また炉内の温度調整により、オーブン内を 300 度以上にすることもできるため肉を焼く等の調理も可能であり、磁器鍋でご飯の炊飯も可能である。遠赤外線による加熱調理なので、大変おいしい料理が出来上がる。

放熱面積が大きいので熱効率が向上するのも特長の 1 つだ。なお、クッキング機能をもたない薪ストーブ単体でも販売している。

#### ■TypeC

住宅の使用エネルギー効率を高め、冬は暖かく夏は涼しい住宅として「高気密高断熱住宅」が増加しているが、その高気密住宅へ薪ストーブを設置することは一般的には難しい。なぜなら薪ストーブは室内の空気を燃焼用空気として取り入れて外へ排出する、いわゆる“換気システム”であり、そのまま薪ストーブを取り付けた場合、住宅内が酸欠状態になる可能性がある。また室内換気扇を回せば薪ストーブの炉内から排煙が逆流する危険性がある。

TypeC は室内空気ではなく外気を燃焼用として取り入れる構造の薪ストーブである。ストーブ後方に取り入れ口を設け、そこに外気を取り入れるためのダクトを取り付けることができる構造になっている。

また、「薪ストーブの操作はダンパーを開け、空気の量を調整して…、煩雑だ。」というお客様の声に応え、空気量をワンタッチで操作するハンドルを設けた。そのハンドルを前後することで、簡単に空気量を調整することができ、小さなお子様からご高齢の方まで幅広く簡単に薪ストーブを操作して頂ける。

販売ターゲットとなる市場\*3 は、日本全国各地の建築士が設計する新築一戸建住宅である。当社は中期計画として 2020 年度に国内市場の 3%を獲得することを目指している。

本製品は 2015 年 12 月より市場投入を行う。

\*1 昭和 38 年創業。株式会社大気社と技術提携をし、自動車用塗装ロボットシステムのアッセンブルを担っている。また、「キューブ FLAME」という国産薪ストーブのメーカーであり、IT システムの設計・施工会社であり、EV 車・PHV 車向けの充電器を販売・施工している会社である。

\*2  
 キューブ FLAME : 日鉄工営(株)が設計・製造販売している鋼鉄製薪ストーブ。針葉樹を燃焼可能、業界初の 20 年保証、4 色の彩りなどの特長をもつ。北は北海道、南は鹿児島県まで全国に幅広く設置されている。

\*3

薪ストーブの市場規模

近年、低炭素社会を実現するための eco ツールとして薪ストーブが注目されている。2011 年に起きた東日本大震災時にインフラが停まった折、身近にある木材を燃やして暖を取ったり、その熱を利用してお湯を沸かしたり、料理をしたり、活躍したのが薪ストーブである。この時をきっかけに薪ストーブが見直され、市場が活性化した。

◎現在の市場規模

市場価格	
薪ストーブ本体	約 30～70 万円
煙突部材	約 30 万円
取り付け工事費等	約 40 万円
1 件当たり	約 100～140 万円

薪ストーブ導入物件数	
全国の新築一戸建 建築件数	約 30 万件／年
上記のうち薪ストーブ導入物件数 ※日本暖炉ストーブ協会調べ	約 1 万件／年

$$100 \text{ 万円／件} \times 1 \text{ 万件／年} = \underline{\underline{100 \text{ 億円／年}}}$$